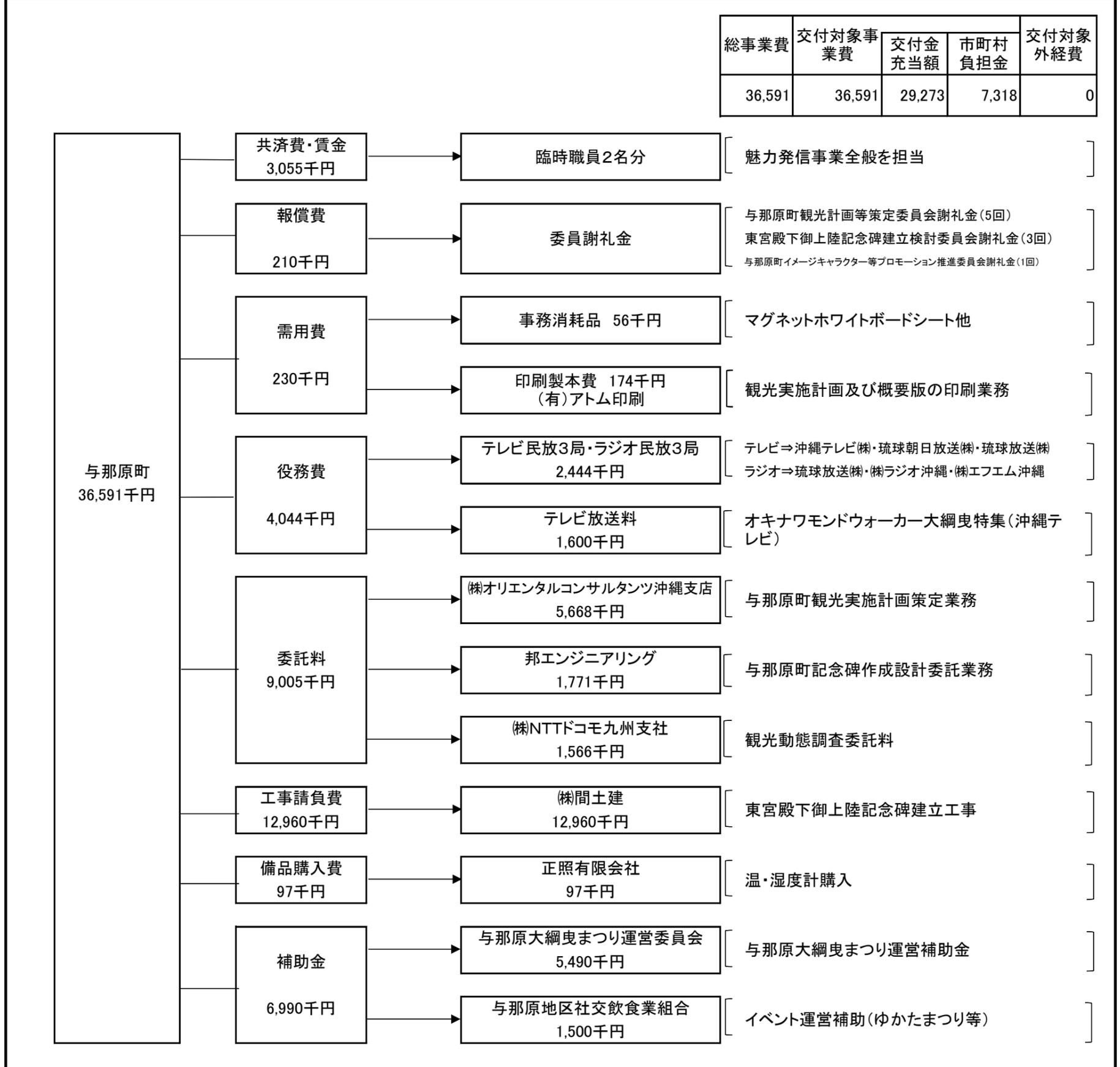


市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 与那原町魅力発信事業	事業実施(予定)年度		平成26~33年度	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(2)-(イ) 市場特性に対応した誘客活動の展開 沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-1-(1)		
担当部課名	観光商工課						
事業内容	本町の魅力を町内外に発信するために一年を通して各種イベントを開催し情報を発信する。また、新たな観光資源の開発や「与那原町観光実施計画」の策定、魅力発信事業に関連する委託業務を行い、本町観光事業の基盤を築く。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		12,648	6,060	22,540	84,055	
			12,648	7,060	17,840	38,461	
			0	1,000	▲ 4,700	▲ 45,594	
			-	-	-	-	
			12,648	7,060	17,840	38,461	
		B. 執行済額	12,420	6,932	16,923	36,591	
		うち交付金充当額	9,936	5,545	13,538	29,273	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	98.2%	98.2%	94.9%	95.1%	
	予算の状況の説明	平成29年度においては、当初予算額より45,594千円の減額となっている。その大きな要因は与那原町観光PR事業を含む9委託事業の減額と負担金、補助金の1事業の減額である。新年度予算計上の際、本課としては事業化可能と判断しエントリーしたが、議会ででの予算審議において「与那原町観光実施計画」を策定してから計画されている委託業務等を行うべきであると審議され、予定されていた委託事業及び負担金、補助金は一旦予備費として予算化され「与那原町観光実施計画」の策定を待った。しかし、実施計画書の策定が年度末になる事が判断されたため、第4回と第6回の交付決定変更において事業費減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	与那原大綱曳PR事業実施 3回	目標	(3回)	(3回)	()	()	
		実績	3回	3回			
	記念碑の設置(1式)	目標	()	(1式)	()	()	
実績			1式				
達成状況説明	与那原大綱曳PR事業として、①大綱曳テレビCM放送(3局)②大綱曳ラジオCM放送(3局)③大綱曳テレビ番組放送の3事業を実施し、テレビ・ラジオ、番組を通して与那原大綱曳の魅力を町内外の幅広い層にPRすることができた。また、その他事業として社交街をPRするためにゆかたまつりを開催し、多くの来場者が会場に訪れ夜のイベントを楽しんだ。平成25年度に作成した「与那原町観光計画」を基に「与那原町観光実施計画」を策定し、今後5年の与那原町観光の重点事項を定めた。東宮殿下が初めて沖縄に御上陸した歴史の有る与那原町。その史実を後世に継承し新たな観光資源として活用するために記念碑建立工事を実施し、記念碑の建立が実現した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	与那原町大綱曳来場者数	目標	()	()	()	(18,800名)	()
		実績				23,109名	
	ゆかた祭りイベント来場者数	目標	()	(600人)	(400名)	(420名)	()
		実績		1,359名	6,000名	1,044名	
進捗状況説明	与那原大綱曳PR事業として、CM・ラジオ放送、大綱曳に関する番組放送の3事業を実施した成果もあり、今年度は目標の18,800名を大きく上回る23,109名の参加があり、目標を達成する事ができた。ゆかた祭りに関しても420名を上回る1,044名の参加があり目標を達成できたが、御殿山親水公園イベントは実施することができなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今年度は、13件の委託業務を企画立案・計画し議会との調整に望んだが、議会から「観光実施計画」が策定されていない現段階で多くの委託業務を実施するのは時期尚早だという指摘を受け、当初の計画より、御殿山親水公園イベントを含む11の委託事業が廃止となった。</p>	<p>・平成29年度に策定した「与那原町観光実施計画」の重点施策の3本柱である「Ⅰ. 大綱曳、Ⅱ. 水路、Ⅲ. MICE」を中心に、効率的かつ継続可能な企画立案・計画を立て事業を実施する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・大綱曳のPR事業・その他魅力発信事業については来場者数の推計やニーズをモバイル空間統計、アンケートなどを活用して情報を収集し、今後の企画立案・計画、イベント開催などに活用していく。</p>		

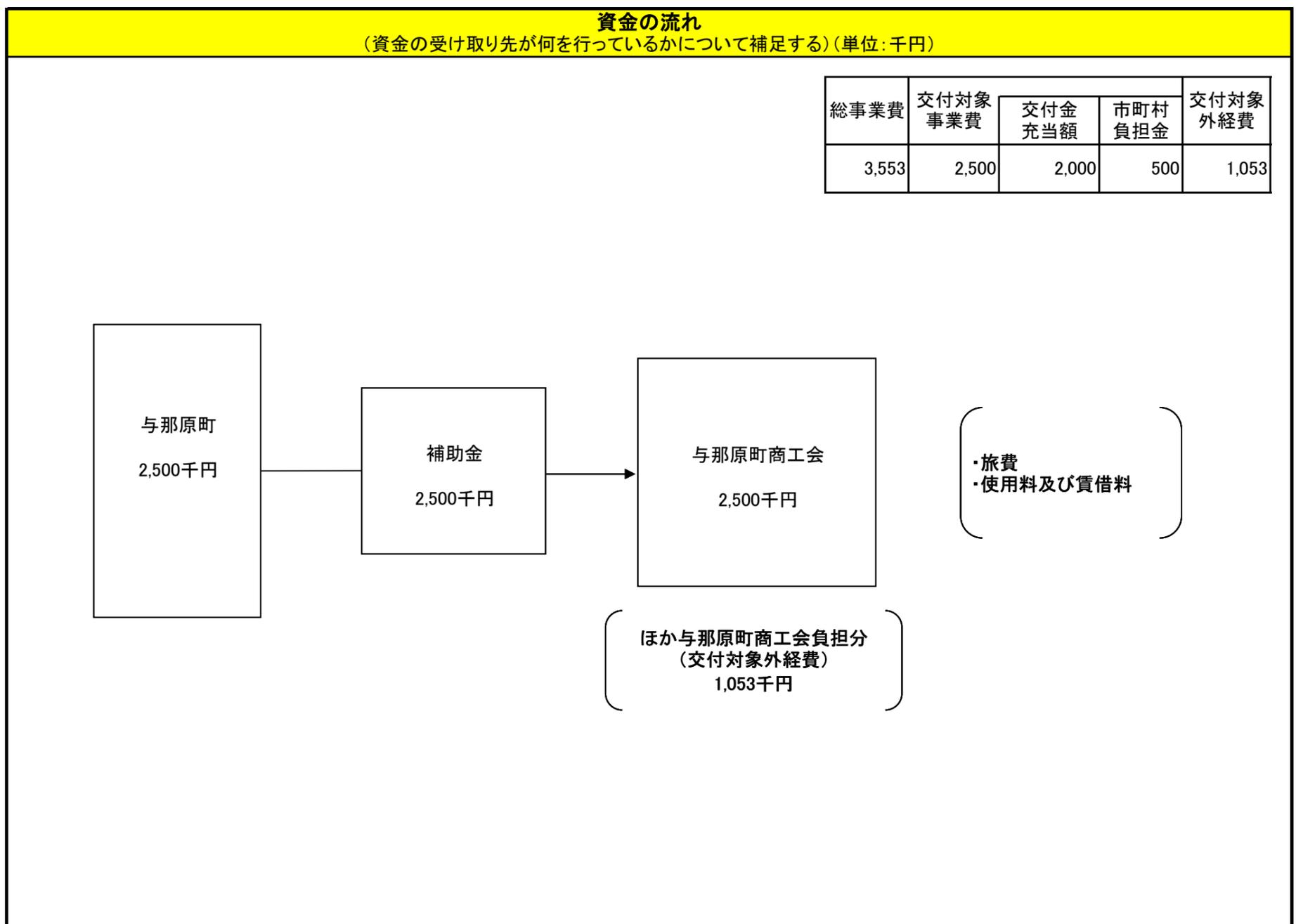
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定については、本町の契約、会計規則に基づき、見積もりによる競争や指名競争入札等にて選定しており適正である。</p> <p>○複数見積等により予算を確定しており予算規模は妥当と考える。</p> <p>○受益者負担については、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に定める交付率に基づいており、負担関係は妥当であると考えられる。</p> <p>○費目・用途については実施段階で十分な検討を重ねており、目的に即した真に必要なものとなっている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 商工会青年部南北交流支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度 平成24~33年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	平成7年より本町商工会青年部と交流を続けている北海道浜中町の学生との体験交流により、与那原町の将来を担う人材の育成及び浜中町に本町の魅力を知ってもらい、本町の特産物等の物流及び相互間での商取引による産業振興、加工施設や観光施設等の先進事例の視察研修を行うことによる観光振興に寄与する事を目的とした事業に対して支援する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,000	2,000	2,500	2,500	2,500
		(b) 予算現額	2,000	2,000	2,500	2,500	2,500
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,000	2,000	2,500	2,500	2,500
		B. 執行済額	2,000	2,000	2,500	2,500	2,500
		うち交付金充当額	1,600	1,600	2,000	2,000	2,000
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	当初の計画通り北海道浜中町との交流事業を実施でき100%の執行率となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	交流派遣者数24人	目標	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	
		実績	交流派遣者数23人	交流派遣者数24人	交流派遣者数24人	交流派遣者数24人	
	浜中町交流団25人受入	目標	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	
実績		浜中町交流団26名受入	浜中町交流団13名受入	浜中町交流団11名受入	浜中町交流団12名受入		
達成状況説明	事業プログラムとして派遣した小学生が地元の小学校で与那原の歴史・文化を紹介する機会を設けており、本町の魅力を伝える場となっている。今年度は青年部が与那原PRポスター(4種類)を作成し、浜中町内にて配布を行った。しかし、浜中町の過疎化による人口減少に伴い派遣する児童の目標人数を確保する事が困難となり、派遣人数が削減されたことが交流団受入未達成の要因であると思われる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(27年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	交流事業以外で、浜中町からの観光来町者数30人以上 (基準年度:H27 26人) ※H33年度目標値:250名	目標	(26名)	(30名)	(30名)	(30名)	()
		実績		23名	8名	35名	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・交流事業以外でも視察研修や観光で本町を訪れた総数が35名となり目標を達成する事ができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・浜中町の方々が与那原町への来町動機となるまでにはまだまだPR不足と考えている。	・浜中町商工会青年部とSNSを活用してお互いの情報を共有し、商工会青年部員研修視察受入体制の構築をして情報発信の強化を実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・浜中町商工会青年部とは継続的な交流事業の活動をSNSで共有し情報を発信する事で南北の特色を活かした魅力ある活動をPRして周知していく。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○平成7年に北海道浜中町商工会青年部と与那原町商工会青年部が姉妹提携を結び継続されてきた事業であり、これまでの事業実績をみても支出先の選定は妥当である。 ○予算規模については、予算の大部分を占める旅費等についても、複数見積り等により比較した額であるため適正な規模である。 ○受益者負担については、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に定める交付率に基づいており、負担関係は妥当であると考えられる。 ○実績報告書を確認したところ費目・使途についても適切に運用されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

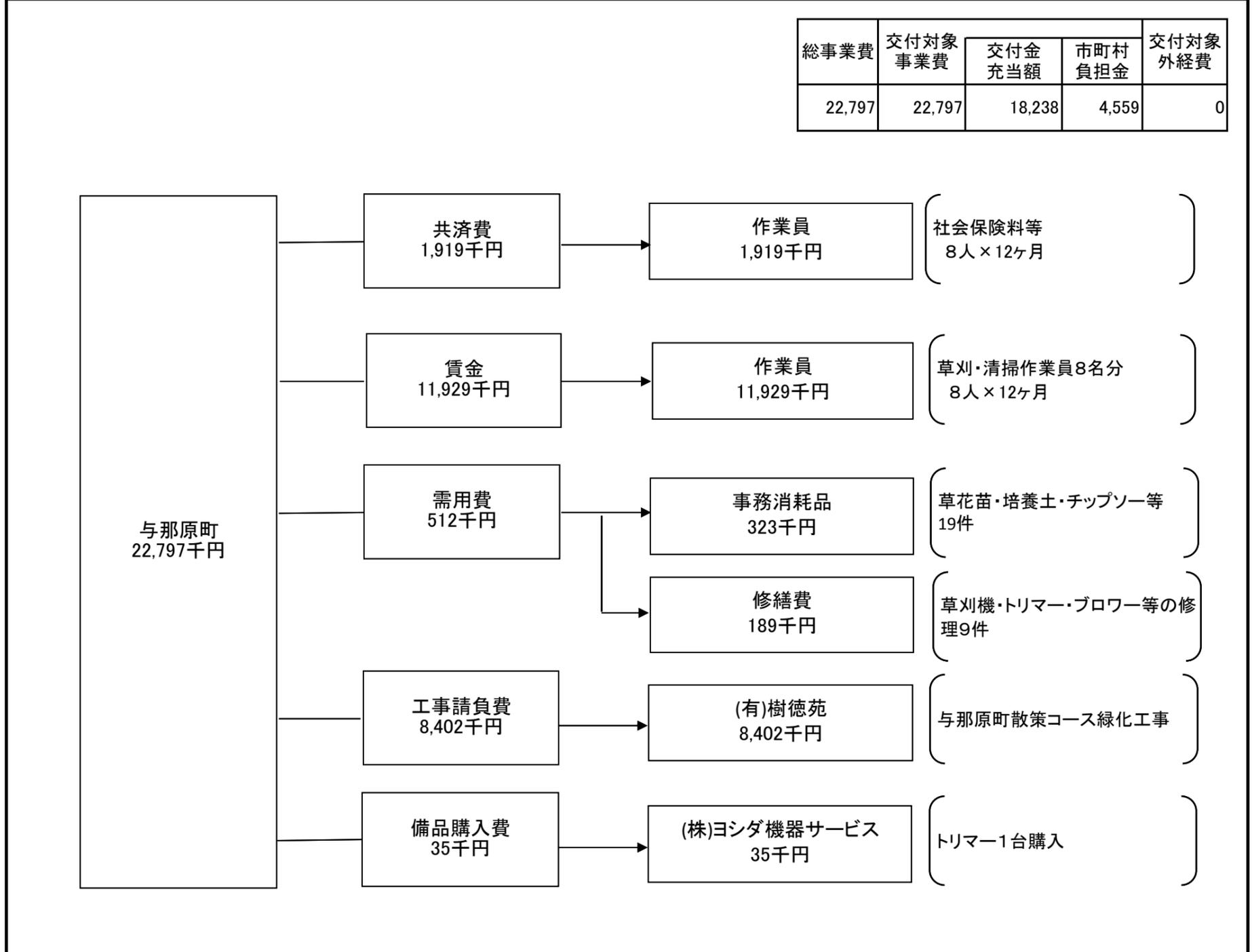
市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③ 観光地美化・緑化きれいなまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)		
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本町を訪れる観光客の満足度を向上させるため、散策コースの環境美化(剪定・除草・植栽整備等)を実施し、観光地としてふさわしい景観及び環境を創出する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,920	22,765	21,482	11,907	26,346
		(b) 予算現額	20,920	21,233	21,482	11,007	24,647
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,532	0	▲ 900	▲ 1,699
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	20,920	21,233	21,482	24,647	24,647
	B. 執行済額		20,549	20,651	19,788	10,703	22,798
	うち交付金充当額		16,439	16,521	15,830	8,562	18,238
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.2%	97.3%	92.1%	43.4%	92.5%
予算の状況の説明		事業費減額理由として、賃金職員が悪天候及び私用の休暇等で、当初予定していた日数分の作業ができなかった為、1,200千円減額した。それに合わせて、社会保険料も386千円減額とした。消耗品費については、今年度は機械・機具の消耗部品等の購入が少なかった為、113千円減額とした。 不用額の1,849千円は、工事予定数量の減、入札残及び消耗品数量の減などによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	散策コース(10km)環境美化作業員配置 8名	目標	()	()	()	(8名)	
		実績				8名	
	町内各所への花木の植樹	目標	(緑化工事0.6km)	(緑化工事1.0km)	()	(緑化工事0.5km)	
		実績	緑化工事0.6km実施	緑化工事1.0km実施		緑化工事0.5km実施	
達成状況説明	・散策コースを作業員8名により定期的に美化清掃を繰り返すことで、環境の美化を維持している。 ・町内各所への花木の植樹については、今年度は東浜地区にて、サガリバナ13本、モモイロノウゼン1本、マニラヤシ3本、その他中低木の植栽を行い来訪者が気持ちよく回遊できる環境を整えることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	・本事業(剪定・除草・植栽整備等)による環境美化の散策コースについて、観光地としてふさわしい景観及び環境である(80%)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		71.3%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	122名からの回答を集計した結果、71.3%の観光客から魅力的であるとの回答が得られたが、目標の80%には届かなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【アンケート検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町の自然、歴史、文化などの特性を反映した景観の形成・維持が課題である。 ・夏場は雑草の成長も早く、作業員8人でも追いついていないのが現状の課題である。 	<p>【アンケート検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観を維持していく上で、本町は海も近い事から花木が塩害により枯れるのを防ぐ為の対策が必要である。 ・作業員8人により細部まで草刈・清掃を行う為の配置計画の検討が必要である。

今後の取り組み方針

・塩害による枯れを防ぐ為、定期的に木肌の洗浄を行う。又、成長不良な花木については施肥及び灌水を行う。
 ・作業員8人については、夏場の雑草の成長が早い時期でも細部まで草刈・清掃ができるような配置計画を立て、実行する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負事業者は指名競争入札にて決定した為、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 与那原町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名: 2-① 学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業
担当部課名: 学校教育課
事業実施(予定)年度: 平成24~33年度
事業内容: 児童生徒の学力向上及び人材育成の為に、わかりやすい授業を行う為の電子黒板等を整備する。

効果発現年度: 当年度
実施方法: 直接実施

Table with columns for years (25-29) and rows for budget status (a-d), execution amount (B), and execution rate (B/A). Includes a note on personnel costs.

Table for activity goals and achievement status. Columns include H29 activity goals and achievement status for 26-29 years. Rows include electronic blackboards, tablets, and information education support staff.

Table for achievement goals and progress status. Columns include H29 achievement goals and progress status for 29-31 years. Rows include survey results for students and teachers regarding ICT usage.

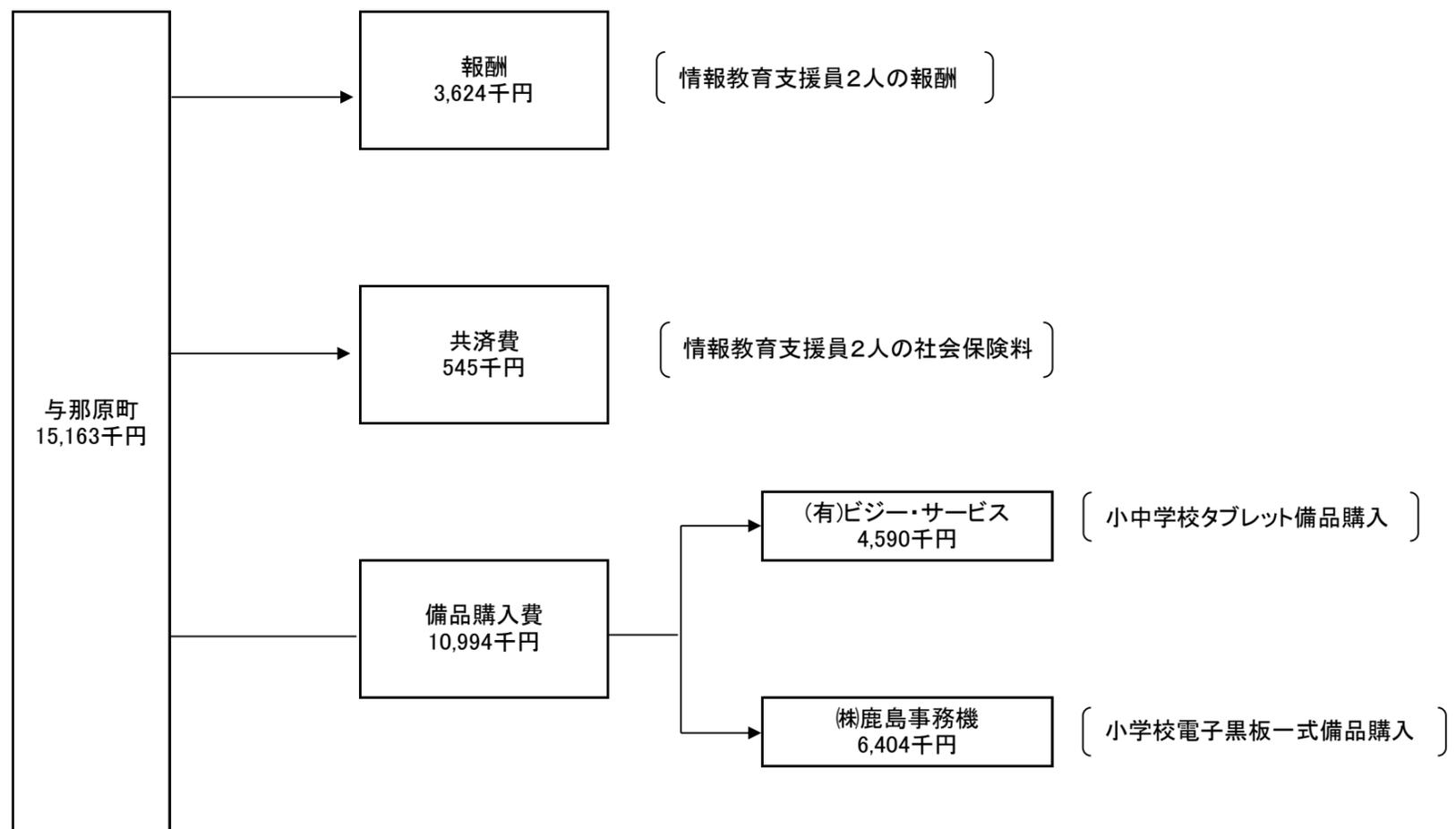
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領では、プログラミング教育が始まるが、各教員により、技術力の差異がある。 ・タブレットを配置しているのに、コンピュータ室以外の場所でも活用させたいが、無線LANのシステム導入が未整備のため、効果的に活用されていない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・差異をなくすための研修を実施する必要がある。 ・無線LANのシステム導入を検討し、より効果的にICT機器が活用できる環境整備を行う必要がある。

今後の取り組み方針

- ・情報教育指導員を活用して教員の指導力向上研修を進める。
- ・無線LANのシステム導入に向けては予算措置に課題があるが、具体的に検討してさらに効果的にICT機器が活用できる環境整備を進めたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
15,163	15,163	12,131	3,032	0



資金の用途の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、応募者を面接により選定し、「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であり、備品購入については、指名競争入札により選定しており妥当である。 ○不用額は事業費の約5%であり概ね適正な規模であったと判断した。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	きめ細かな児童生徒支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部課名	学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける 教育の推進		
事業内容	学習の遅れ気味な児童生徒に対し、学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力の向上を図る。 特別な支援を要する障害がある児童生徒に対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。 特別な支援を要する不登校の児童生徒に対応した支援を行うことで、不登校の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	57,400	63,194	77,688	91,130	90,911
		(b) 予算現額	55,636	59,513	77,688	71,110	78,313
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,764	▲ 3,681	0	▲ 20,020	▲ 12,598
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	55,636	59,513	77,688	71,110	78,313
	B. 執行済額		52,402	59,185	74,909	66,930	75,305
	うち交付金充当額		41,921	47,348	59,927	53,544	60,244
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.2%	99.4%	96.4%	94.1%	96.2%
予算の状況の説明		学習支援員は、事業計画の人数の雇用確保ができず、予算減額となった。 不用額は人件費での欠員期間・出勤実績による差額等が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	特別支援教育コーディネーター1人配置 (対応回数各学校 30回)	目標	()	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績		1人	1人	1人	
	スクールカウンセラー1人配置 (対応回数175回)	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績		1人	1人	1人	
	学習支援員21人配置 (支援日数週5日)	目標	(21人)	(20人)	(20人)	(21人)	
		実績		20人	20人	20人	
	特別支援教育支援員24人配置 (支援日数週5日)	目標	(11人)	(20人)	(26人)	(24人)	
		実績		12人	22人	26人	24人
放課後学習支援員5人配置 (対応児童数1,000名)	目標	()	(4人)	(5人)	(5人)		
	実績		4人	5人	5人		
達成状況説明	学習支援員以外の支援員等の配置は、概ね目標を達成することができた。学習支援員については、応募者が定員に対して少なく、3人の配置不足が生じた。 特別支援教育コーディネーターは定期的に学校訪問し、気になる児童生徒の指導方法の改善に関する助言等を行った。 スクールカウンセラーは定期的に学校訪問し、児童生徒の教育相談、保護者との面談等を行った。 学習支援員は授業で担任の指導の下、児童生徒に対して学習支援、補習指導を行った。 特別支援教育支援員は、気になる児童生徒の学習支援や学校生活支援を行った。 放課後学習支援員は、児童生徒の家庭学習が定着するために児童館における学習支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (24年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 小学校: 県との差0.3ポイント以上を目指す 中学校: 県との差5.4ポイント以上を目指す	目標	()	(小学校+0.3 中学校+5.4)	()	()	()
		実績			小学校-0.9 中学校-0.8		
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度80%	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績			92.8%		
	不登校児童生徒復帰率 10%以上 ※H33年度目標値: 不登校児童生徒の削減	目標	()	(復帰率 10%以上)	()	()	()
		実績			復帰率11%		
	進捗状況説明	・小学校・中学校ともに、「沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差」の目標値を達成することができなかった。 ・保護者の特別支援員への満足度は92.8%となり、目標を達成した。 ・「不登校児童生徒の復帰率10%以上」については、目標を達成することができた。スクールカウンセラーや支援員等の配置の効果があったものと思われる。					

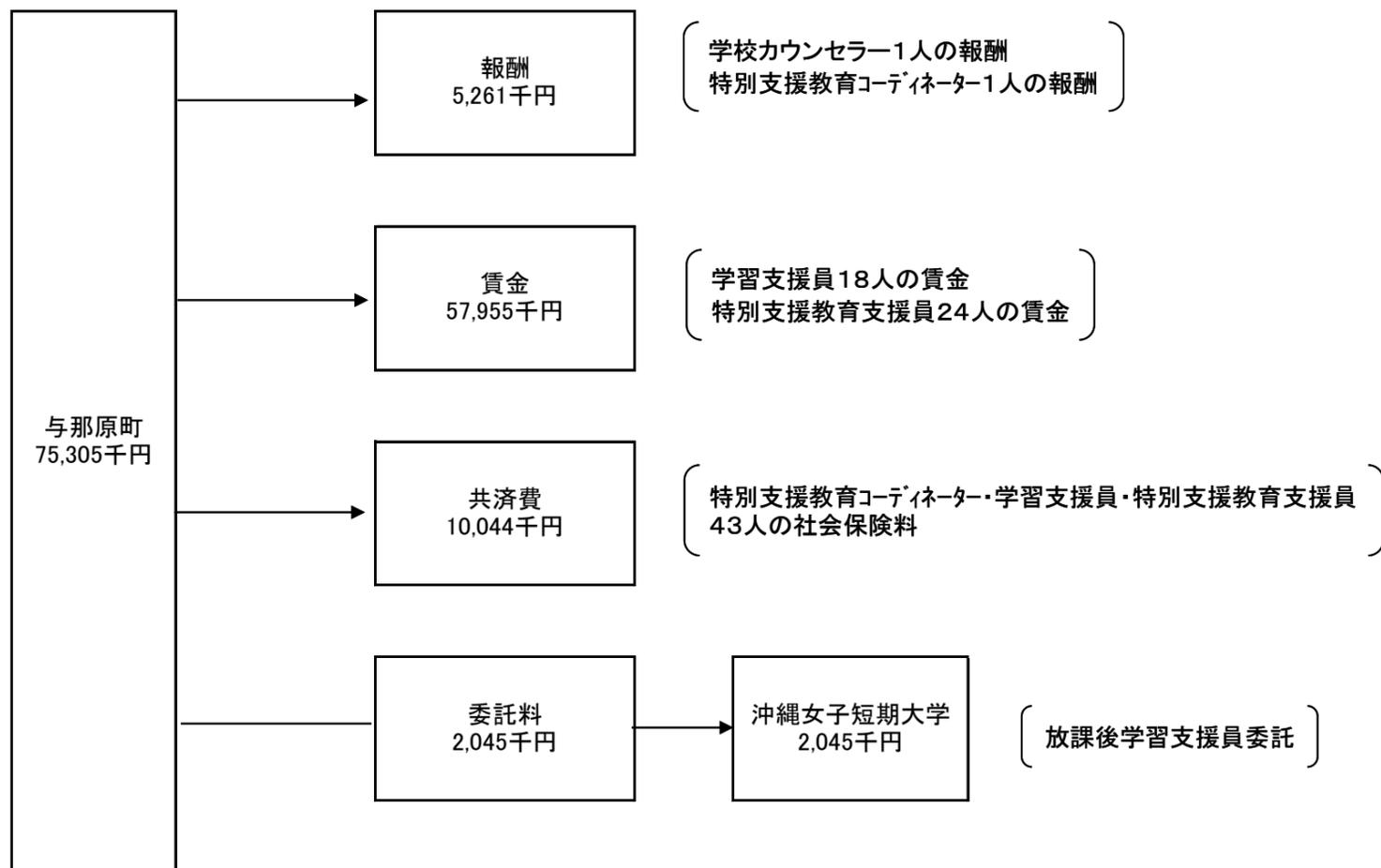
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率を向上させられなかった要因としては、雇用条件の面で短期間の雇用となるため、指導力の向上を図る方策や職員との連携方法に課題があったことと考えられる。 人材の確保が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援員の指導力の向上を図る方策は、管理職や職員との連携をより深める方法が効率的だと思われる。管理職の授業参観と指導助言や授業前後の担任との短時間の打合せなどを日常的に行うシステム作りが必要である。 人材の確保のため、従来と異なる新たな求人の方法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 支援員の指導力の向上を図る方策として、管理職の授業参観と指導助言の頻度を増やし、授業前後の担任との短時間の打合せなどをこれまで以上に充実させる。
- 4月から人員配置出来る様に、ハローワーク以外に大学等にも求人を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
75,305	75,305	60,244	15,061	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、応募者を面接により選定し、「与那原町臨時職員に関する規則」「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であり、業務委託については、児童生徒の学習規律の定着と次世代の人材育成を目的としている為、地方自治法第167条の2第1項第2号を適用し、本町にある短期大学と随意契約により選定しており妥当であると判断している。 ○不用額は事業費の5%以内であり概ね適正な規模であったと判断した。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ 国際理解人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	国際的感覚や視点を身に付ける人材育成の為に、英語指導助手を配置する。スポーツをしながら、生きた英会話や国際感覚を身につける為に、スポーツイングリッシュスクールを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,302	6,487	8,922	9,662	12,267
		(b) 予算現額	6,352	6,489	8,922	9,403	12,267
		(c) 増減額(b-a)	50	2	0	▲ 259	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	6,352	6,489	8,922	9,403	12,267
	B. 執行済額		6,352	6,486	7,785	9,400	12,263
	うち交付金充当額		5,081	5,188	6,228	7,520	9,810
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	87.3%	100.0%	99.97%
予算の状況の説明		本事業予算は、英語指導助手2名に係る報酬及び共済費並びに業務委託1件分としており、当初計画規模通り適切に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	英語指導助手 2人配置	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績	2人	2人	2人	2人	
	スポーツイングリッシュスクールの実施	目標	()	(21回)	(44回実施)	(2団体 40回実施)	
		実績		17回	41回実施	2団体 35回実施	
達成状況説明	・英語指導助手(ALT)を2名雇用し、計画通り各学校に配置した。 ・平成29年度からより多くの児童へ英語への興味を高めるため、2団体へ事業を実施。 ・スポーツイングリッシュスクールを35回実施した。実施できなかった5回は、県外遠征や旧盆と重なり開催できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	英語検定取得(1~5級) 165人 (基準年度:H24 116人) ※H33年度目標値:185人	目標	(116人)	(145人)	(155人)	(165人)	()
		実績		113人	79人	131人	
	【H30成果目標】 児童生徒の外国語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
進捗状況説明	英語検定の取得者は、165人の目標に対して131名の実績となった。平成29年度は、他の行事と検定日の調整が図られたことで受験者が252名と大きく伸び、例年と比して取得者も伸びたが、目標には達していない。						

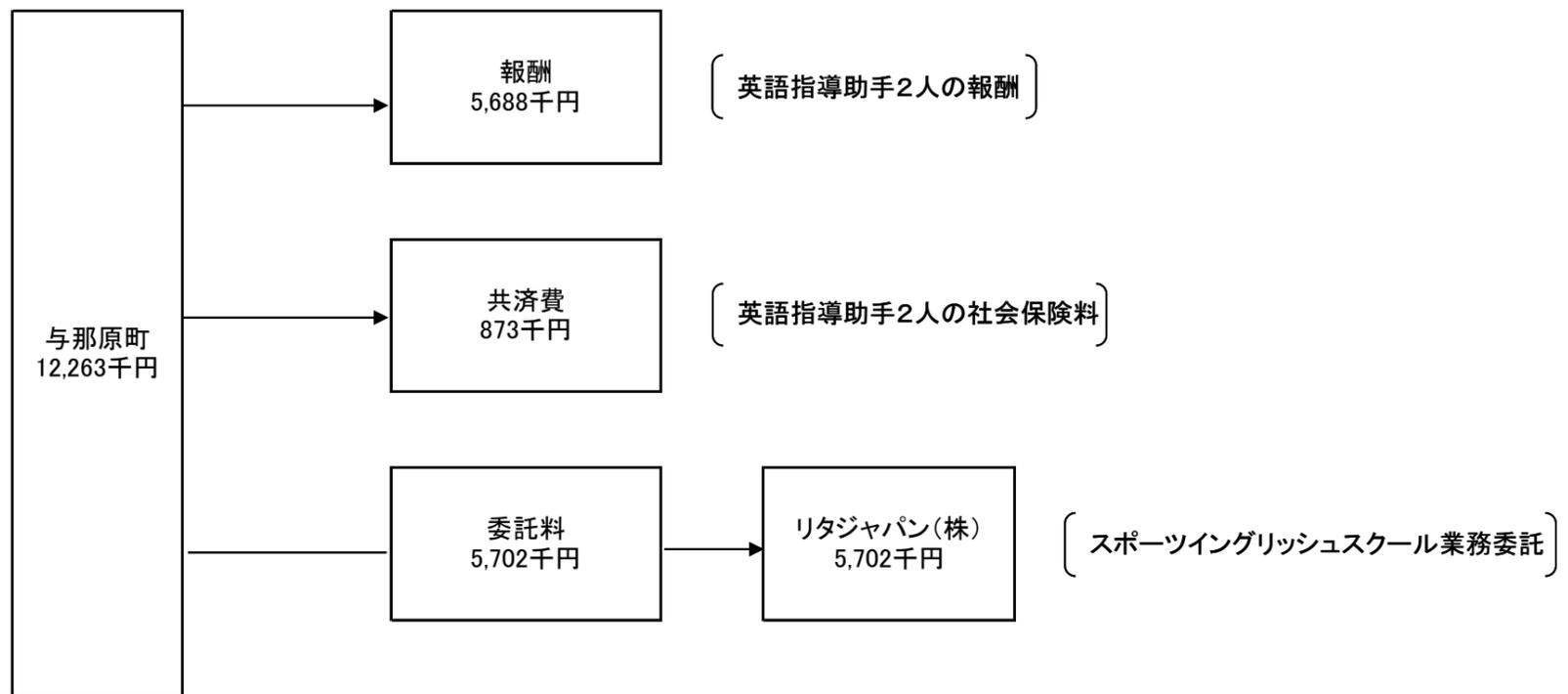
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・事前調整が不十分であったことにより、生徒の学力に見合う相当級からの順次受験でなく、上位級を受験したことによって、合格に至らなかった事例がある。	・適切な級位受験を推奨するなど、事前相談システムを充実させる必要がある。

今後の取り組み方針

・英語検定の受験を希望する生徒に対し、英語科教諭及びALTが面談を通して対象の生徒の英語力を確認すると共に、レベルアップの助言を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

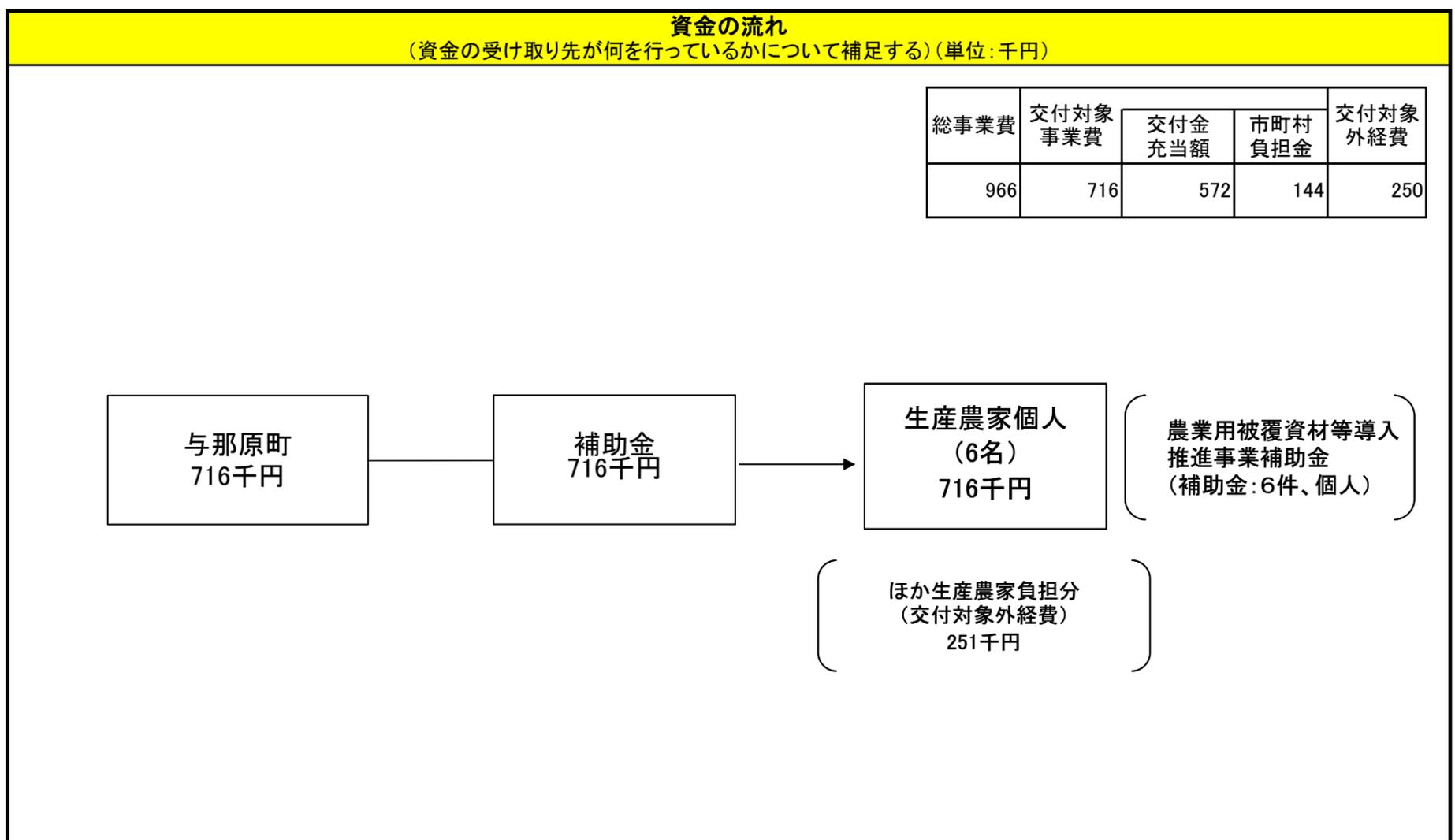
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,263	12,263	9,810	2,453	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手については、面接により選定し、「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」に基づき、任用しており妥当であり、業務委託については、本事業を行うことのできる事業所は本業務内容を提案したリタジャパン(株)のみである為、地方自治法第167条の2第1項第2号を適用し随意契約により選定しており妥当であると判断している。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 農業用被覆資材等導入推進補助事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度 平成29～33年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	沖縄県では、地理的な要因により、台風の襲来、塩害、強い日射等により農作物に大きな被害が出ている。そのため、台風等による自然災害の被害軽減を図るとともに、病害虫の発生を抑制するための農業用被覆資材等を導入する経費に対して補助を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,000				
		(b) 予算現額	1,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	1,000				
	B. 執行済額		716				
	うち交付金充当額		572				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		71.6%				
予算の状況の説明		当初予算1,000千円を計上していたが、実施農家の変更があり、実施後の結果執行率71.6%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	台風等の自然災害、病害虫等の被害軽減を図るため被覆資材導入推進を図る。	目標	(7件)	()	()	()	
		実績	6件				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	台風等の自然災害や病害虫等の軽減のため、ビニールハウス用のビニールやネット等を設置する農家に対し補助を行った。当初7件の予定をしていたが、申請のあった農家6件の実施となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	被覆資材の導入により台風等の自然災害、病害虫等の被害を軽減し、ゴーヤー、インゲンは平成27年度の実績より4%、マンゴーについては、平成28年度の実績より2%A秀品率向上を図る。	目標	()	(マンゴー 8% ゴーヤー35% インゲン 25%)	()	()	()
		実績		マンゴー 2.5% ゴーヤー 90% インゲン 84%			
	【H30成果目標】 ゴーヤー出荷量 2,500kg以上	目標					2,500kg
	【H30成果目標】 マンゴー出荷量 1,300kg以上	目標					1,300kg
進捗状況説明	ゴーヤーは、H27年度実績31%に対し90%。インゲンは、H27年度実績21%に対し84%となりA秀品率の割合が大幅に向上した。主な要因としては、事業実施に伴い新たな品目として取り組んだ成果が出ていると考えられる。マンゴーについては、A秀品率はH27年度実績6%に対し2.5%で目標に達しなかったが、事業実施に伴い農家の意欲も高まり全体的に生産量の増加につながっている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・作物の生育段階等により被覆資材の設置時期が違うので、それぞれの時期に合わせた対応が必要。</p>	<p>・作物によって植付から収穫までの時期が違うため、農家の状況を踏まえ事業実施時期の調整が必要。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・農家とJA、町が連携し生産情報の共有を図り、最適な出荷時期を見据えた調整と事業実施体制の強化等積極的に取り組んでいく。</p>		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○農家の選定方法は、農協を通じ必要する農家の要望を踏まえ選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○農家数や営農状況を勘察し、妥当な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は、総事業費の2割を負担しており、他の同様の事業負担割合から判断しても妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目や使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		与那原町					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4	与那原町海外友好親善大使人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア		
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7		
事業内容	与那原町出身の海外移住者子弟を本町で研修生として受け入れ、日本語研修及び陶芸や空手、三線といった研修等を行い、本町の文化と歴史を学ぶ。また、小中学生との交流会を通して、小中学生に国際交流について関心を持たせる。本町での研修成果を活かし、本町及び本県と移住先国とのネットワークを強化し、PR大使として友好親善並びに沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,977	3,009	2,047		
		(b) 予算現額	2,817	2,011	2,005		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,160	▲ 998	▲ 42		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	2,817	2,011	2,005		
	B. 執行済額		2,542	1,623	1,949		
	うち交付金充当額		2,033	1,298	1,559		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		90.2%	80.7%	97.2%		
予算の状況の説明		研修講師への報償費が研修回数により決定するため、研修回数が当初見込みより減ったことによる-42千円。渡航費増大のため、渡航事務委託料に事業間流用により222千円充用。不用額の56千円は通信費等の執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	海外移住者子弟研修生受入:2人	目標	(2人)	(2人)	(2人)		
		実績	2人	2人	2人		
	児童生徒・町民との交流会:2回	目標	(2回)	(2回)	(2回)		
		実績	4回	6回	4回		
	帰国後の研修報告会:1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)		
		実績	0回	1回	2回		
	与那原町における交流会でのアンケート実施	目標	()	(アンケート実施)	(アンケート実施)		
		実績		アンケート実施	アンケート実施		
帰国後の研修報告会でのアンケート実施	目標	()	(アンケート実施)	(アンケート実施)			
	実績		アンケート実施	アンケート実施			
達成状況説明	海外移住者子弟研修生受入については、アルゼンチンとペルーから1名ずつの研修生を受け入れた。児童生徒・町民との交流会については、町内小学校2校を訪問し、異文化交流を図ることができた。町青年会や町職員など地域との交流も積極的に行い、研修生の日本語向上、地域住民の移民に対する知識向上及び国際交流への関心を深めることができた。帰国後の研修報告会については、在アルゼンチン与那原町人会と在ペルー与那原町人会で研修生が自ら作った作品や写真を使って研修報告会を行った。町人会では、研修生を通して故郷与那原町の現状と発展を知ることができ、今後の町人会活動や沖縄文化の継承・発展への新たな一歩となる報告会となった。						

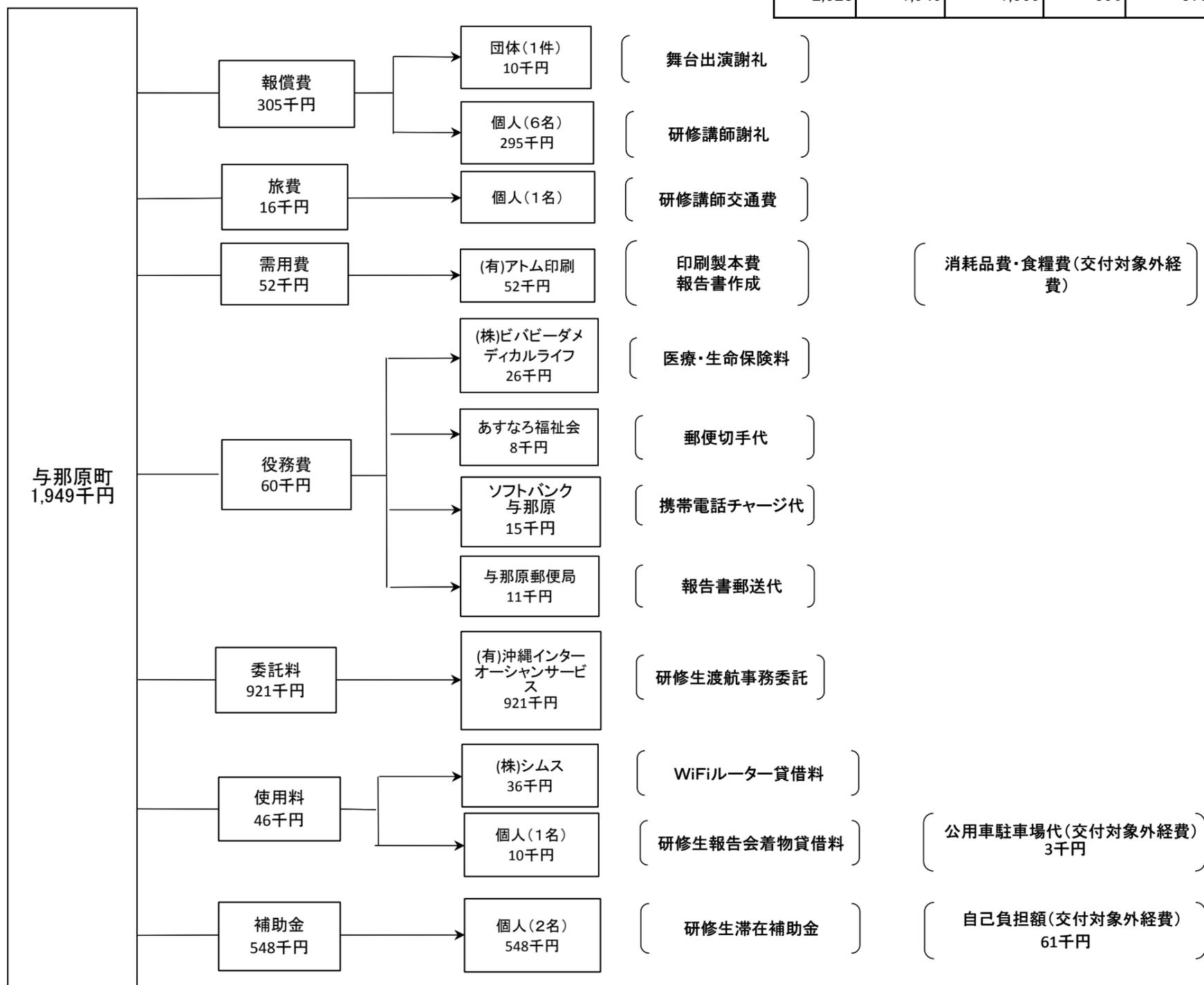
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)	
	与那原町での交流会でのアンケート 国際交流に関心がある人の割合:70%	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	(70%)	()
		実績			85%	97%	95%	
	帰国後の研修報告会でのアンケート 沖縄・与那原に関心がある人の割合:70%	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	(70%)	()
		実績			-	100%	100%	
PR大使としての活動	目標	()	(PR大使活動)	(PR大使活動)	(PR大使活動)	(PR大使活動)	()	
	実績			沖縄料理の普及活動 相撲大会への出場等	日本語の普及活動 伝統芸能等の普及活動	各国町村会にて 文化普及活動		
	【H30成果目標】 受入れた研修生が沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)を含めアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標					80%	
進捗状況説明	<p>町内小学校での交流会を通してアンケートを実施した。198名からの回答を集計した結果、目標である70%を上回る95%の児童生徒から「国際交流に関心がある」との回答を得られた。</p> <p>帰国後の研修生によるアンケート実施については、町人会員62名中62名が「沖縄に興味がある」と答え、その他には「沖縄の文化が習いたいと思う」が28名、「沖縄大切な歴史と素晴らしい文化を守りたいと思う」が10人、18歳から35歳まで青年のうち「いつか研修生になりたいと思う」が8名という回答を得ることができ、沖縄文化や当研修事業へ関心度を高めることができた。</p> <p>PR大使としての活動では、研修で得た知識や経験を活かし、町人会の青年部部長として活動をするなど、沖縄・与那原の文化普及活動に努めている。</p>							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<ul style="list-style-type: none"> この経験を今後母国にてどのように活かしていくのか、互いのネットワークを強化し、両国の振興と発展にどのように関わっていくのかなど、活動状況等の確認を定期的に行える体制づくりが課題となる。 受入先について、滞在先の高齢化や町内にすでに親戚が住んでいないなどのケースが多くなってきているため、研修目的に沿った研修生の滞在のあり方等検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 研修生の帰国後は引き続き研修報告会を開催し、母国でも沖縄県及び与那原町への関心度を高め、両国の振興・発展に寄与する人材として活動を行えるよう体制の強化を図る。 受入先については、町内民泊やマンスリーマンション等での宿泊も検討することで、事業の持続性を保ち、研修生や在町親戚の負担を減らし研修や交流に集中して取り組む環境を整えることを目指す。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,328	1,949	1,559	390	379



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業については、レート価格の変動及び社会情勢等により渡航費を算出することが困難であるため、南米渡航コーディネートを専門とする3業者に見積もりを依頼し、随意契約を行った。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、渡航費を3社見積りし、比較検討していることや、講師報酬費を町規程に基づいていること等から適正である。
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である研修生の個人負担分は、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に基づいており、妥当である。
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、精算段階で検査を実施し、目的に即し必要なものと判断した。

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5	ほっとハート子育て応援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 III-4		
事業内容	0歳児を9人以上受け入れのできる保育園に看護師を配置し、定員増を図る。 看護師を配置することで、定員増による安全性の低下を防ぎ良好な保育環境を維持する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	3,000	2,100	2,100	2,700
		(b) 予算現額	3,000	1,900	2,100	1,800	1,800
		(c) 増減額(b-a)	0	▲1,100	0	▲300	▲900
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	3,000	1,900	2,100	1,800	1,800
	B. 執行済額		1,891	1,800	1,650	1,678	1,750
	うち交付金充当額		1,512	1,440	1,320	1,342	1,400
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		63.0%	94.7%	78.6%	93.2%	97.2%
予算の状況の説明		看護師を、4か所は4月から(12か月間)、1か所は10月から(6か月間)配置することを目標にしていたが、2園から申請の取り下げがあり、3か所での実施となった。よって、600千円(12か月分)及び300千円(6か月分)合わせて、900千円の減額補正としている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・認可保育園への看護師配置 7施設中4施設(各1名配置) ・年度途中1施設(1名配置)		目標 (5施設)	(4施設)	(4施設)	(5施設)	
	達成状況説明		実績 3施設	3施設	3施設	3施設	
達成状況説明		当初は、5か所の認可保育園に看護師を各1名配置することを目標としていたが、2園から申請の取り下げがあり、3か所での実施となった。 5か所に配置という目標は達しなかったが、看護師配置を3か所で行うことで12人の受入増員が図られた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(H23年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	0歳児待機児童数 H28(10月)44名 → H29(10月)27名 ※各年度10月待機児童数を使用。		目標 (24人)	(23人)	(27人)	(27人)	()
			実績	36人	44人	41人	
	【参考指標】 0歳児の認可園受け入れ数		目標 ()	(75人)	(75人)	(72人)	()
			実績	73人	72人	76人	
	【H30成果目標】 看護師を配置したことによる0歳児待機児童数15人以内		目標				15人
進捗状況説明		看護師配置を行った3園では、39人の受入が行われ、12人の増員が図られた。待機児童数は目標に達しなかったが、0歳児の認可園受け入れ数においては、目標を達成。 今年度は0歳児待機児童数(44人→41人)、0歳児受入人数(72人→76人)と数値が良くなっているといえる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・各保育所で看護師の求人を行ったが、保育所での勤務内容や賃金等の問題から応募が少なく、一部の保育所で看護師配置(採用)を断念せざるをえなかった。</p>	<p>・各関係機関への求人の働きかけを継続して行なうとともに、応募資格要件の緩和の実施するとともに、沖縄県保育士・保育所総合支援センターにおける労働環境の検証を依頼し、各園へ改善の提案をする。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・看護師確保のための資格条件の緩和を行い、応募者増員を図るとともに、各園に対し賃金、労働環境の見直しを促し処遇改善を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,750	1,750	1,400	350	0



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定は、補助金交付規則に基づき、町内すべての法人認可保育園へ周知し、事業実施保育園を選定しているので妥当である。</p> <p>○予算規模(補助金額)についても保育士給与と看護師給与の差額(月額5万円程度)となっており、適正な予算規模である。</p> <p>○費目・用途は、保育園からの支出書類(給与明細)等を確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6	公立幼稚園・保育所等保育環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)			
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	公立幼稚園における給食提供時に、配膳支援員を配置し、支援をすることで個々の園児の食事時のマナーや偏食改善などを図り、家庭における保護者の負担軽減を図る。 公立保育所に日除けネットを設置し、園児の紫外線や熱気などによる健康被害を防ぎ、園庭保育の安全と充実を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(30年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,497	18,150	12,972		
		(b) 予算現額	4,497	18,150	11,674		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲1,298		
		(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)		4,497	18,150	11,674		
	B. 執行済額		4,208	17,886	11,569		
	うち交付金充当額		3,366	14,308	9,255		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		93.6%	98.5%	99.1%		
予算の状況の説明		以下項目により不用額が生じ、減額した。 給食配膳支援員配置予定5人に対し、3人の配置と1人年度末退職 398千円減 工事管理委託料の減額 235千円減 工事委託料の入札による減額 665千円減					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	幼稚園給食配膳支援員配置 3人	目標	(4名配置)	(3名配置)			
		実績	4名配置	3名配置			
	保育所園庭へのサンシェードの設置 1か所	目標	(2か所設置)	(1か所設置)			
		実績	2か所設置	1か所設置			
達成状況説明	【給食配膳支援員配置】 与那原幼稚園・与那原東幼稚園へ給食提供日に3名の支援員配置を行い配膳支援を行った。 配膳の効率と、安全管理の推進が図られ達成している。 【与那原町立阿知利保育所日よけネット設置工事】 町立保育所へ1基設置を計画、実施工事完了。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	保護者の負担軽減が図られたかを含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標	()	()	(負担軽減 80%)	()	()
		実績			負担軽減 70.8%		
	サンシェード整備の完了 1箇所	目標	()	(2カ所設置)	(1か所設置)	()	()
		実績		2カ所設置	1か所設置		
	【H30成果目標】 ・夏季期間(6月~10月)において、日中の園児の室外活動時間90時間		目標	()	()	()	(90時間)
進捗状況説明	【アンケート検証】 給食時における支援を実施してから改善はみられるものの、目標値には達していない。 【サンシェード整備の完了】 園庭保育の時間の増加。外でのびのびと走り回ったりすることで、園児のストレスが解消され午睡時の改善に繋がっている。日焼け、熱中症の予防に効果が出ている。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【アンケート検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配膳支援員が配置予定数より下回ったことで支援が行き渡っていない ・改善目標を達成するための項目が各支援員で曖昧である ・家庭においては個人のペースや保護者の食生活への趣向によって改善されない事も見受けられる。 ・就学後を見据えた支援が必要である。 <p>【サンシェード整備の完了】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的な検証を行う必要がある。 	<p>【アンケート検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員の適数確保に努める。 ・支援員同士で定期的に報告をする場を設け、情報の共有を行う必要がある。 ・食育月間、健診実施後などを通して保護者への食育に対する意識啓蒙を定期的に図り、指導・助言を行う必要がある。 ・5歳児は就学後の給食を想定した食事のとり方等を重点的に改善を行う。 <p>【サンシェード整備の完了】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンシェードを設置したことにより、室外での活動時間が増加したかを検証する必要がある。

今後の取り組み方針

【アンケート検証】

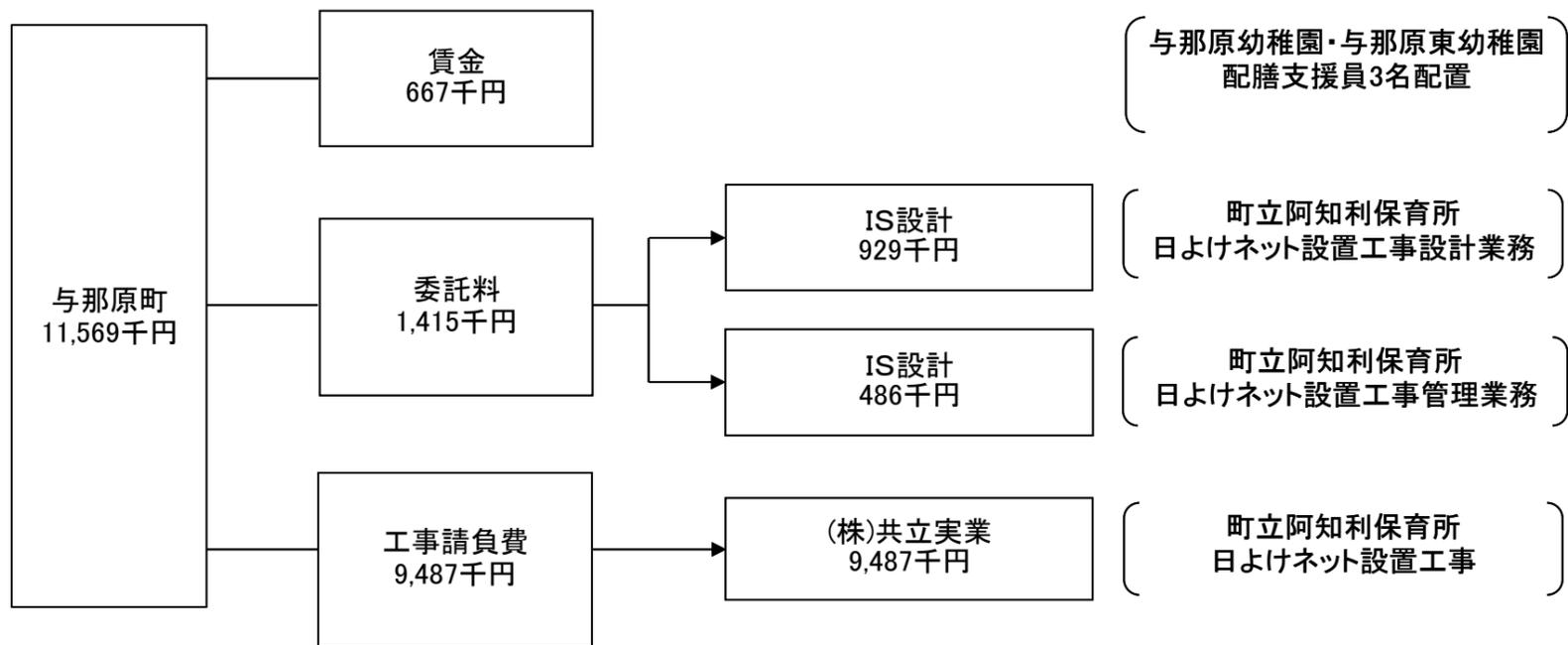
- ・配膳支援員の適数配置のため、募集業務の強化とボランティアバンク等への働きかけを行う。
- ・支援員同士の打合せを年6回以上実施する。
- ・保護者への定期的な意識啓蒙を行う。
- ・就学後の給食を想定した食事のとり方等を支援に加える。

【サンシェード整備の完了】

- ・夏季期間(6月～10月)において、日中の園児の室外活動時間が増加したかを検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,569	11,569	9,255	2,314	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○配膳指導員は、ボランティアバンク等へ公募し選定。町賃金職員管理規定に基づき任用している。設計等の業者は指名競争入札で選定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○積算時の定数人数を任用できなかったことで不用額が生じたが、任用条件を付して積算しており適正である。設計、工事費に係る不用額に関しては事業費の5%以内であり適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○積算根拠が適正であるか検査しており、用途に相違はないと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

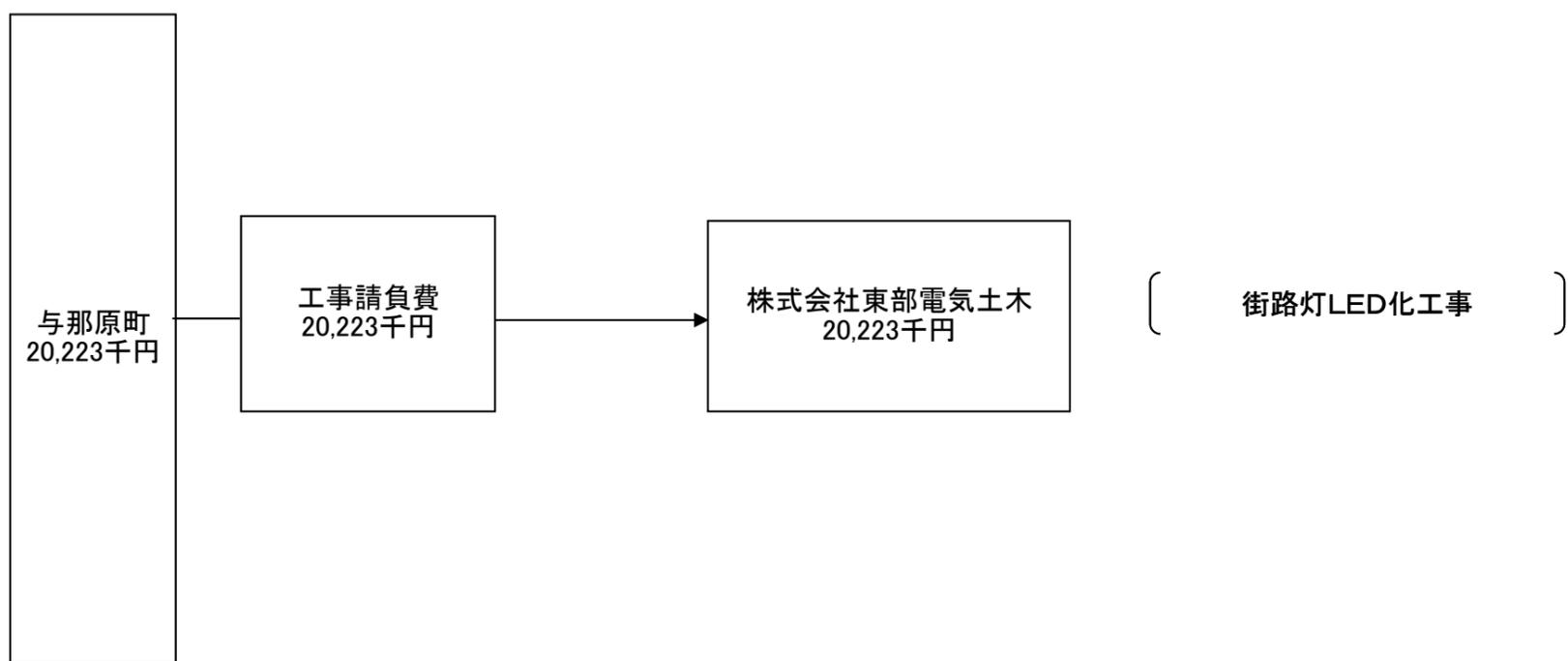
市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7 地球温暖化を防止するための循環型社会形成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-1-(3)-(ア) 地球温暖化防止対策の推進					
担当部課名	生活環境安全課	事業実施(予定)年度 平成26~29年度 沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-10-(1)					
事業内容	地球温暖化を防止するための循環型社会を形成するため、町内全域の街路灯をLED化し、温室効果ガスである二酸化炭素の排出を抑制する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,514	70,211	37,000	19,168	
		(b) 予算現額	6,514	70,211	25,370	20,228	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 11,630	1,060	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	6,514	70,211	25,370	20,228	
	B. 執行済額		5,184	64,836	25,369	20,223	
	うち交付金充当額		4,147	51,868	20,295	16,178	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		79.6%	92.3%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		LEDライトと電源ユニット交換を予定していた施工箇所において、既設灯の形状から、灯具一式を取り換えなければならなかった為、工事費の増額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	街路灯LED化 88基	目標	(163)	(88)	()	()	
		実績	162	75			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	街路灯LEDの設置については、当初予定では88基であったが、一部対象外の街路灯があったため、対象外を除くすべての個数である75基の機器取替を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	街路灯のLED化による二酸化炭素排出量抑制 12,867kg	目標	()	(3,600kg)	(54,699kg)	(12,867kg)	()
		実績		3,714kg	68,039kg	21,764kg	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	街路灯LED化による温室効果ガス排出量を目標値を超えて抑制することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・町民の環境意識の啓発に対しては、継続的な活動が必要である。	・今後も引き続き、町で開催する学習講座や広報誌等を活用し、環境意識を高めていく必要がある。

今後の取り組み方針
・町民の環境に対する意識を高めるために、引き続き年に一回程度、学習講座や町広報誌等を活用し啓発活動を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,223	20,223	16,178	4,045	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負事業者は指名競争入札で決定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○一部工法変更により予算増額となったが、積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、事業目的に即し、必要なものに適正に使用している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9 走る・よなばる・PR事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	税務課	事業実施(予定)年度 平成29～31年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	<p>オリジナルナンバープレートを活用して本町の観光資源等を町内外へアピールし、その振興を図る為、選考委員会の設置、デザインの公募・選定を行う。選定された絵柄をもとにオリジナルナンバープレートを製作する。また、事業の周知を図る為、四半期ごとのPR活動を行う。製作に当たっては、従来標識にはない「発光塗料」を採用、より付加価値を高めるとともに交通安全の一助となるよう工夫する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,414				
		(b) 予算現額	1,356				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 58				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	1,356				
	B. 執行済額		1,336				
	うち交付金充当額		1,068				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.5%				
予算の状況の説明		入札に伴う減額及び、委員の欠席による委員報酬の減額。その他については事業予定どおり執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	原動機付自転車オリジナルナンバープレートの製作 1,500枚	目標	(1,500枚)	()	()	()	
		実績	750枚				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成29年度の活動目標は1,500枚だが、公表後の調整により3年間で1,500枚に変更となった。変更となった経緯としては、当初、単価を抑える目的で平成29年度に1,500枚を一括で製作し、3年かけて1,500枚を交付する予定で活動目標を公表した。その後、沖縄県との調整により、単年度事業である為、交付計画と製作実績を合わせるべきとの見解に至り、製作計画も3年間で1,500枚に変更した。よって、平成29年度実績は750枚となっている。今後の活動目標についても、平成30年度400枚、平成31年度350枚の製作・交付を予定している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	平成30年4月の交付開始に向けた事業の着実な実施(①デザイン公募、②四半期ごとのPR活動等)	目標	()	(選定委員会2回開催 PR活動4回)	()	()	()
		実績		選定委員会2回開催 PR活動4回			
	【H30成果目標】 観光客へのアンケート オリジナル標識での与那原町の認知度(50%以上)を含めアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標					50%
		進捗状況説明	①デザイン公募 オリジナルナンバープレート選考委員会を設置し、デザインの公募、選定を行った。本町の三大観光資源として認知度の高い大綱曳を大枠に募集を行い、27件の応募から絵柄を選定した。委員の評価としては、「インパクトがある」、「正確に網を表現しており、観光PRのデザインとして高く評価できる」などの好評を得た。 ②四半期ごとのPR活動等 7月より定期的に広報紙掲載(全世帯折込)やHP掲載を行い、PR活動を行った。また、税務課窓口サンプルを掲示し、来庁者へPRを行った。				

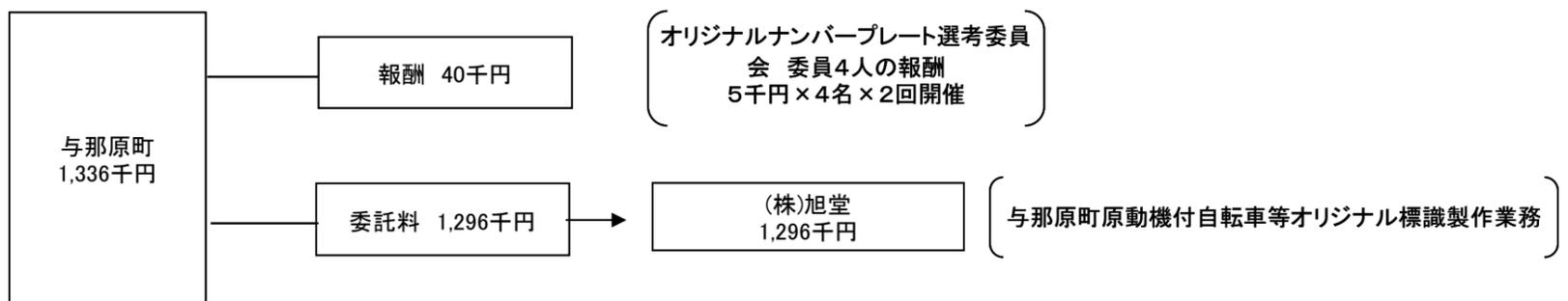
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・交付に際しては、「従来のシンプルなデザインがいい」などの理由により、オリジナルナンバープレートを拒否する方も想定される。 ・本件事業によって、与那原町の認知度が高まったかを検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交付については、オリジナルナンバープレート製作の趣旨を理解して頂き、協力をお願いしていく必要がある。 ・観光客に対して、アンケート調査を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・HP掲載や広報などを積極的に活用し、与那原町PRの一役を担ってもらうため、取組の趣旨を理解して頂く。
- ・観光客へのアンケート調査を与那原まつり等で行い、オリジナル標識での与那原町の認知度(50%以上)を含めアンケートにより本事業の進め方を検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,336	1,336	1,068	268	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業内容・オリジナルナンバープレートの単価含め、適正な規模であった。 ○費目、用途については目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10 東浜水路散策路照明灯設置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度 平成29~31年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	観光誘客を図るため、中城湾港マリントウンプロジェクトにより造成された東浜地区と既成市街地との間の東浜水路沿いに景観に配慮した照明灯を設置する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	24,250				
		(b) 予算現額	24,028				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 222				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	24,028				
		B. 執行済額	22,712				
		うち交付金充当額	18,169				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	94.5%				
予算の状況の説明	「与那原町海外友好親善大使人材育成事業」へ事業間流用した為、222千円事業費を減額した。不用額1,316千円については、委託及び工事の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	東浜水路散策路整備実施設計(与那原地内、距離:1,346m)	目標	(1,346m)	()	()	()	
		実績	1,346m				
	照明灯設置工事(25基)	目標	(25基)	()	()	()	
		実績	20基				
達成状況説明	・1,346mの実実施設計については、全て完了した。 ・照明灯設置工事については、当初25基を予定していたが、設計委託にて照明灯の照度分布計算を行い設置数を20基と決定した。20基の設置工事は全て完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)
	東浜水路散策路照明灯整備実施設計完了	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
	照明灯の設置工事完了(25基)	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		80%			
	【H32成果目標】東浜水路イベントに参加した観光客数440人以上。	目標					440人
進捗状況説明	当初25基の設置を想定していたが、設計委託にて照明灯の照度分布計算を行い設置数を20基と決定したため、目標には達しなかった。						

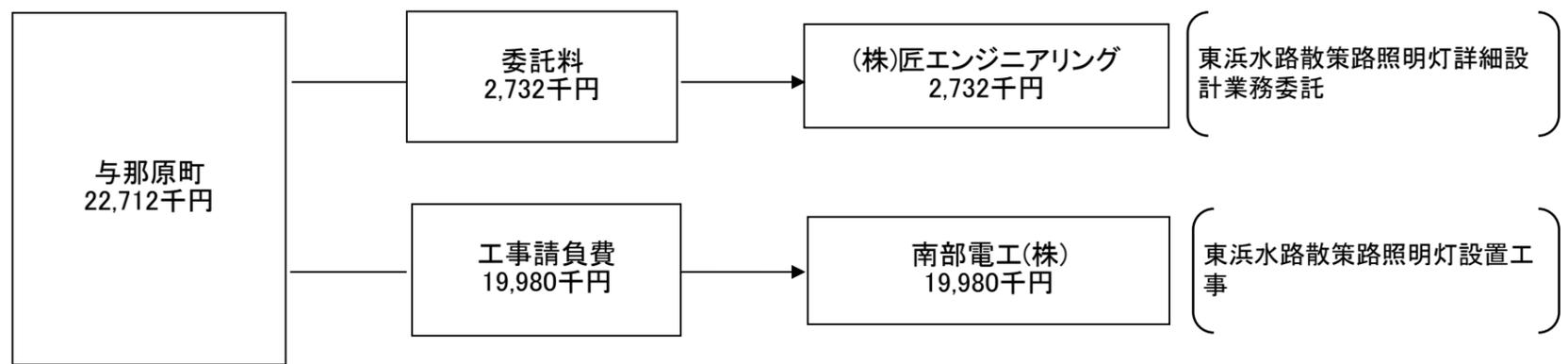
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> より多くの観光客を誘致できるかが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本町のホームページ等で広報活動を行い、又、与那原大綱曳祭り以外の夜間イベントの実施の検討も必要である。

今後の取り組み方針

東浜水路周辺を観光ルートとし、観光客や住民の方に広く知ってもらうため、周知や夜間のイベントを積極的に実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,712	22,712	18,169	4,543	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○工事請負事業者は指名競争入札にて決定した為、妥当であると考えている。 ○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	与那原町大型ビジョン活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	公共施設課	事業実施(予定)年度	平成29~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	東浜地区の中心に大型電光掲示板を設置し、来訪者や町民に本町のイベントや観光スポット、特産品等を紹介する情報を発信することで観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,020				
		(b) 予算現額	4,020				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	4,020				
	B. 執行済額		3,974				
	うち交付金充当額		3,179				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.9%				
予算の状況の説明		不用額46千円については委託の入札残などによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	実施設計の着手	目標	(実施設計)	()	()	()	
		実績	実施設計				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	表示板画面寸法5m相当(屋外)の大型ビジョン1基の実施設計を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	実施設計の完了	目標	()	(実施設計完了)	()	()	()
		実績		実施設計完了			
	電光掲示板の活用に向けた課題の抽出	目標	()	(設置場所の選定)	()	()	()
		実績		設置場所の決定			
	【H31成果目標】 主要観光施設来場者数90,000人		目標				90,000人
進捗状況説明	・表示画面寸法5m相当(屋外)の大型ビジョン1基の実施設計を平成29年度で完了し、平成30年度の整備工事に向けた準備ができた。 ・観光情報の発信に適した場所が町有地にはなかったため、別の設置場所を選定した結果、県内企業が所有する土地に無償で使用する契約を締結して設置できることになったので、平成30年度の整備工事着手に向けた準備ができた。						

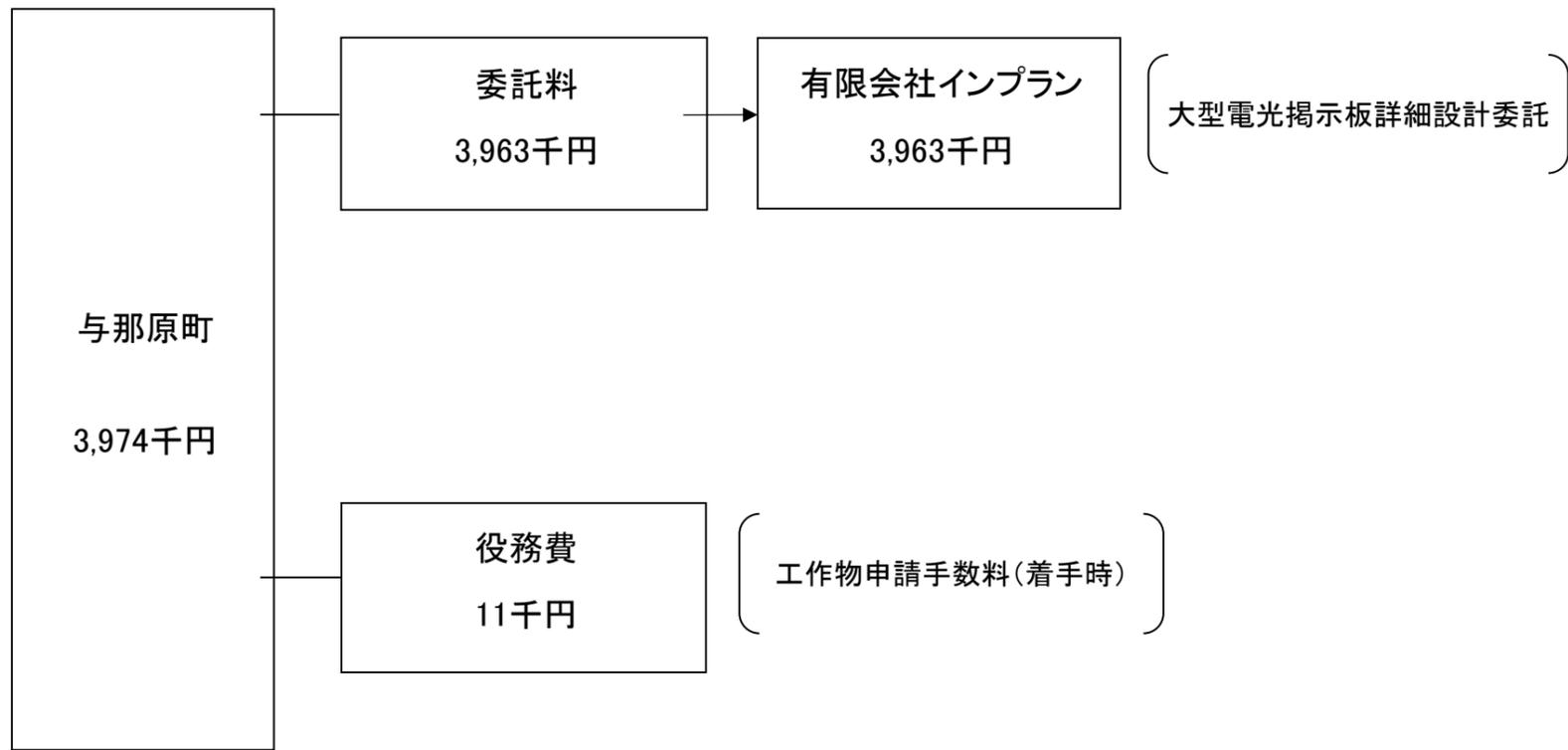
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 大型ビジョンは製作期間が約3カ月要するとともに、県道に面する場所での工事ということもあり、申請等に時間を要するため、発注時期が遅れると、事業計画としている平成30年度の整備工事完了が厳しくなる恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の整備工事を完了するためにも、早期発注を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・平成30年度の整備工事を完了するためにも、平成30年4月より早急に工事設計書を作成し、早期発注を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,974	3,974	3,179	795	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争型入札により選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	12 災害対策備蓄整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	生活環境安全課	事業実施(予定)年度 平成28~32年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	避難施設における被災者の長期避難生活を想定し、非常用食料、寝具類等を計画的に整備し、災害に強いまちづくりの実現を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,678	1,004			
		(b) 予算現額	3,678	1,292			
		(c) 増減額(b-a)	0	288			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	3,678	1,292			
		B. 執行済額	3,591	1,088			
		うち交付金充当額	2,872	870			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	97.6%	84.2%			
予算の状況の説明	備蓄食料の見積り価格が上がったため、288千円の増額となった。不用額の204千円については入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	非常用食料 1,680食	目標	(1680食)	(1680食)	()	()	
		実績	1680食	1680食			
	粉ミルク 20缶	目標	(20缶)	(20缶)	()	()	
		実績	20缶	15箱			
	保存水 1,032本	目標	(1032本)	(1032本)	()	()	
実績		1032本	1032本				
達成状況説明	・非常用食料、保存水の目標個数を達成。 ・粉ミルクは、スチール缶(容量850g)より個別配布の容易な一回分包装ステックタイプの箱型(容量1,296g)へ変更した為、1個あたり容量の違いにより実績数減となるが、総容量は目標を達成している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	H32年度目標量(8,400食)の2/5の達成	目標	(未整備)	(備蓄食料 1680食)	(備蓄食料 1680食)	()	()
		実績		備蓄食料 1680食	備蓄食料 1680食		
	【H30成果目標】 町内避難者及び観光客等の備蓄率 60.0%	目標					60%
	進捗状況説明	平成32年度迄の5カ年間計画に対し、平成29年度目標の1,680食を整備した。					

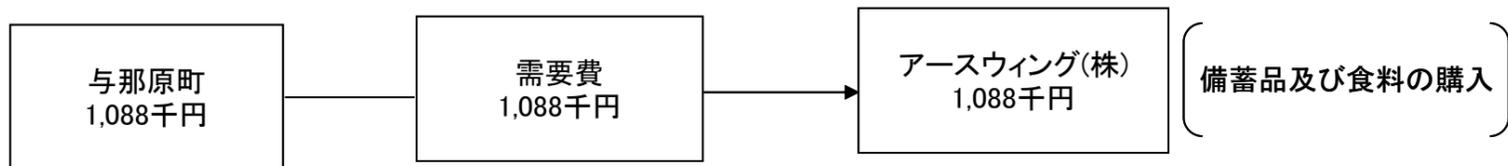
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【今後懸念される問題点等】 今後、マリンタウン地区への大型MICE施設整備により、来訪者の増加が想定される。	【今後懸念される問題点等】 大型MICE施設整備により想定される来訪者や人口の増加も検証する必要がある。

今後の取り組み方針

今後の取組としては、大型MICE施設建設に伴う来訪者や人口増加の把握を十分に行い、計画的に備蓄品を購入していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,088	1,088	870	218	0



資金の流 点検 評価 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受注業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として積算しており、予算規模は適正である。 ○納品検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	13 与那原町健康づくり支援環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-(イ) 「スポーツアイランド沖縄」の形成				
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度 平成29~31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-4				
事業内容	本事業は、与那古浜公園内のトラック及び園路にウレタンゴムチップ舗装を施し、公園の利便性の向上と健康づくりの推進を図ることを目的とする。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
		(b) 予算現額	3,500				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,500				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	3,500				
	B. 執行済額		3,164				
	うち交付金充当額		2,531				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		90.4%				
予算の状況の説明		当初は、鳥瞰図作成などの数量を計上していたが、精査を行ったところ不要と判断したため1,500千円の減額となった。不用額336千円については委託料の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	基本計画の検討(課題の整理、基本方針・基本施策の決定など)	目標	(策定)	()	()	()	
		実績	策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	公園利用者アンケートを実施し利用頻度及び利用形態などの調査を基に、課題を抽出し基本計画の策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	基本計画の策定 ・現状と課題の把握 ・今後の整備に向けた基本施策の決定	目標	()	(策定)	()	()	()
		実績		策定完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	基本計画の策定にあたっては、与那古浜公園の公園利用者及び関係団体からの意向を把握するため、意向調査を実施した。アンケート調査は、平成29年10月26日~11月6日の間に4日程行われ、160人からアンケートを得ることができた。その結果をもとに、指標及び目標値の設定を行った。					

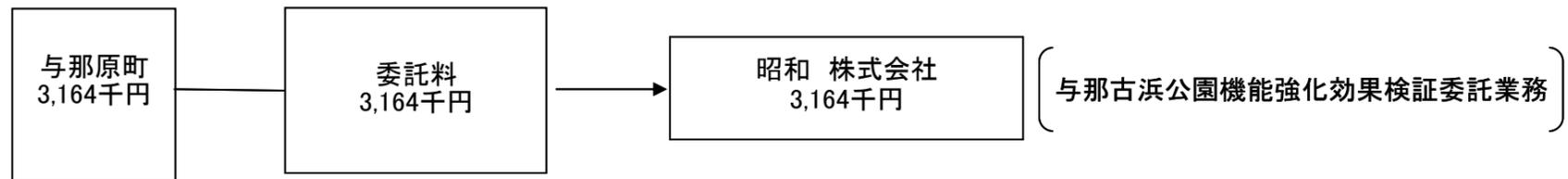
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 今回のアンケートは、朝夕のみの実施となってしまったため、ウォーキングをしている方だけの、偏った回答になっていないか懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回からは、平日及び休日の両日に行い、抽出する年齢層に偏りがないよう実施する必要がある。また、時間帯においても、朝夕だけではなく、親子連れの多くなる昼間の時間帯に実施し公園の利用形態や、状況を細かく把握する必要がある。

今後の取り組み方針

・アンケートの対象等を改善、再度実施し、実施設計に反映させる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,164	3,164	2,531	633	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたためのものであり、適正な規模となっている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	14	「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 「親川」整備のための綱曳資料館の今後の在り方の検討等を行った「与那原町歴史の道基本計画」の策定を行う。 「御殿山」整備工事のための実施設計を行う。 						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度及び34年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,316	-		10,500	
		(b) 予算現額	2,669	-		13,662	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 647	-		3,162	
		(d) 繰越額	-	2,669		-	
		A. 計(b+d)	2,669	2,669		13,662	
	B. 執行済額		0	2,592		13,662	
	うち交付金充当額		0	0		10,929	
	次年度繰越額		2,669	0		0	
	執行率(%) (B/A)		0.0%	97.1%		100%	
予算の状況の説明		平成27年度に実施した「与那原町歴史資料館(仮称)整備事業」の内容が「御殿山」整備基本設計となっているかどうかの確認完了後、「御殿山」整備実施設計業務を追加した為、3,162千円を増額し事業を実施した。予算については、100%執行済。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	・歴史の道の駅基本計画策定業務	目標	(歴史の道の駅基本計画の策定)		()	()	
		実績	歴史の道の駅基本計画の策定完了				
	・「御殿山」整備実施設計業務の実施	目標	(「御殿山」整備実施計画作成)	()	()	()	
		実績	「御殿山」整備実施計画作成完了				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 「親川」整備のための綱曳資料館の今後の在り方の検討等を行った「与那原町歴史の道基本計画」の策定を行った。 「御殿山」整備工事のための実施設計を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	・歴史の道の駅基本計画の策定	目標	()	(基本計画の策定)	()	()	()
		実績		基本計画の策定完了			
	・「御殿山」整備実施設計の作成	目標	()	(実施設計の作成)	()	()	()
		実績		実施設計の作成完了			
	【H31成果目標】 「御殿山」供用開始後1年目(平成31年度)の目標を以下のとおりとする。 綱曳資料館来客者数1,700人以上	目標					1,700人(31年度)
	【H34成果目標】 「親川」広場供用開始後1年目(平成34年度)の目標を以下のとおりとする。 拝観ツアーの参加者数137人以上	目標					137人(34年度)
進捗状況説明	○「御殿山」整備を行うための実施設計を作成したこと、今後整備予定の「御殿山」「親川」を活かすための散策ルート等のゾーニングや、今後の綱曳資料館の在り方を検討委員会に諮ることにより、今後の整備事業や町内観光業務に反映させることできる計画を策定した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○「御殿山」実施設計が年度途中からの執行であったため、業務完了時期が年度末間際となり、平成30年度への影響が出てしまった点が推進上の問題であった。</p> <p>○広場管理棟の規模等を明確にする必要がある。</p>	<p>○「御殿山」の工事については予定地が与那原大綱曳まつり会場であることから、まつり本番の8月以降からの工事となるため、翌年2月までの完了となるようスケジュールを管理する。</p> <p>○広場管理棟の基本計画を作成する必要がある。</p>

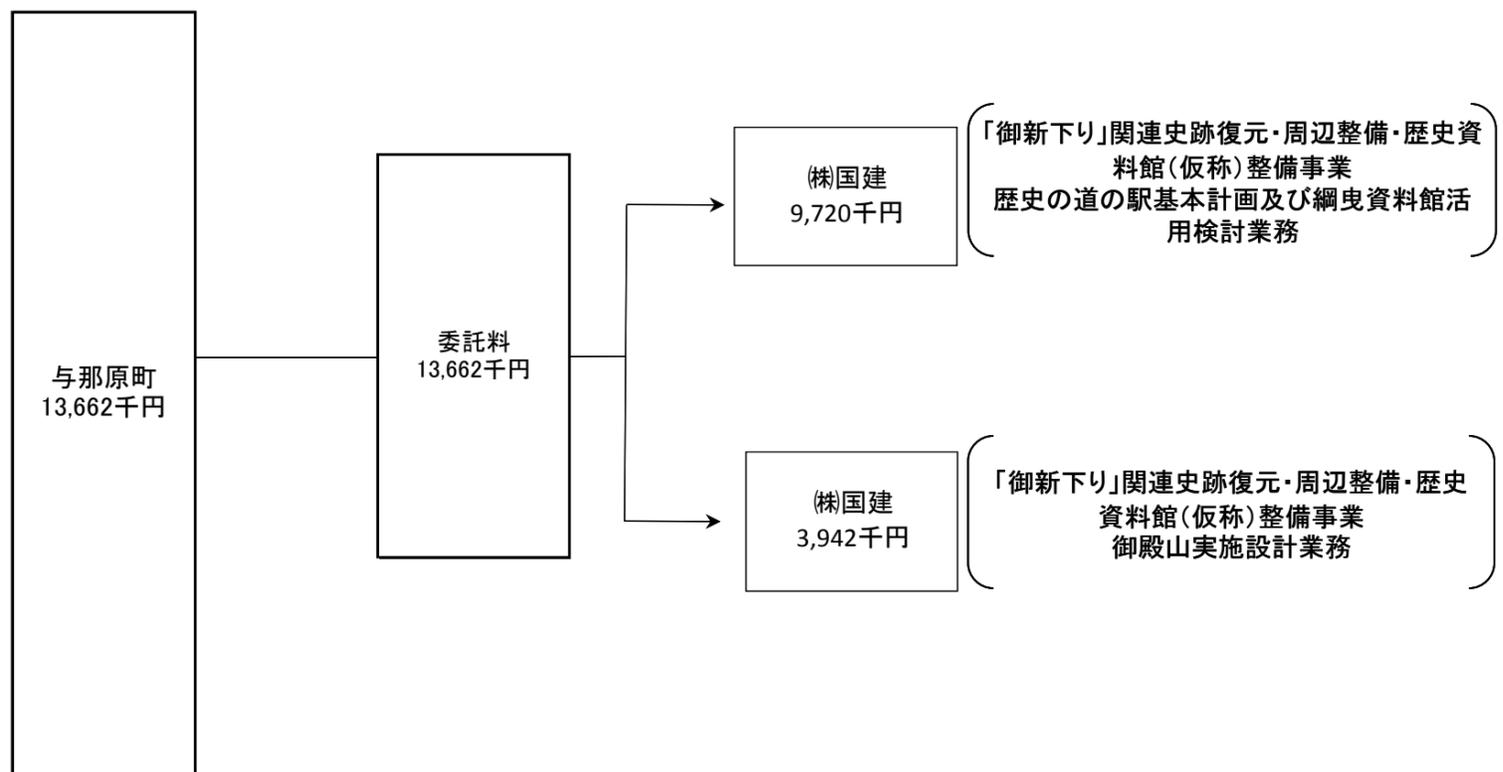
今後の取り組み方針

○まつり終了後早期に工事が着工できるよう、それまでに入札等を実施し、工事業者を決定しておく。

○広場管理棟の基本計画を作成する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,662	13,662	10,929	2,733	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については複数の業者より見積りをとり設定したものであり、適正であったと考えている。 ○整備事業を進めるうえで必要な委託事業であり、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	15	東浜水路観光創造水質浄化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ア)	
担当部課名	生活環境安全課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本町では、東浜水路を活用した観光振興を計画しているが、同水路の水質は流入河川等による汚濁を受け、その活用において支障となる可能性がある。、そのため、現地調査・水質悪化要因の解析を行うことにより、水質予測モデルを構築し、水質を改善し、観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	31,731				
		(b) 予算現額	28,117				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,614				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	28,117				
	B. 執行済額		26,676				
	うち交付金充当額		21,340				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		94.9%				
予算の状況の説明		当初県外企業を想定していたが、県内でも実施可能な企業が数社いた為、旅費等の積算数量の減や市場価格等の実情を踏まえ積算を精査し、3,614千円を減額補正したが、活動目標や成果目標の達成状況を鑑みて事業は適正に執行することが出来た。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	水路浄化のための調査・分析及び調査報告のとりまとめ	目標	(報告書のとりまとめ)	()	()	()	
		実績	報告書のとりまとめ				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・当初計画していた通り、水路浄化のための調査・分析及び調査報告のとりまとめを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)
	東浜水路浄化調査・分析業務の完了	目標	()	(報告書作成)	()	()	()
		実績		報告書作成			
	【H32成果目標】東浜水路イベントに参加した観光客数440人以上。	目標					440人
		進捗状況説明	現地調査・分析を行うことにより、水路の流動と基本的な形成メカニズムを把握することができた。また、現地の流動や水質を再現可能な予測モデルを構築することができ、水質改善に有効な対策案を抽出することができた。				

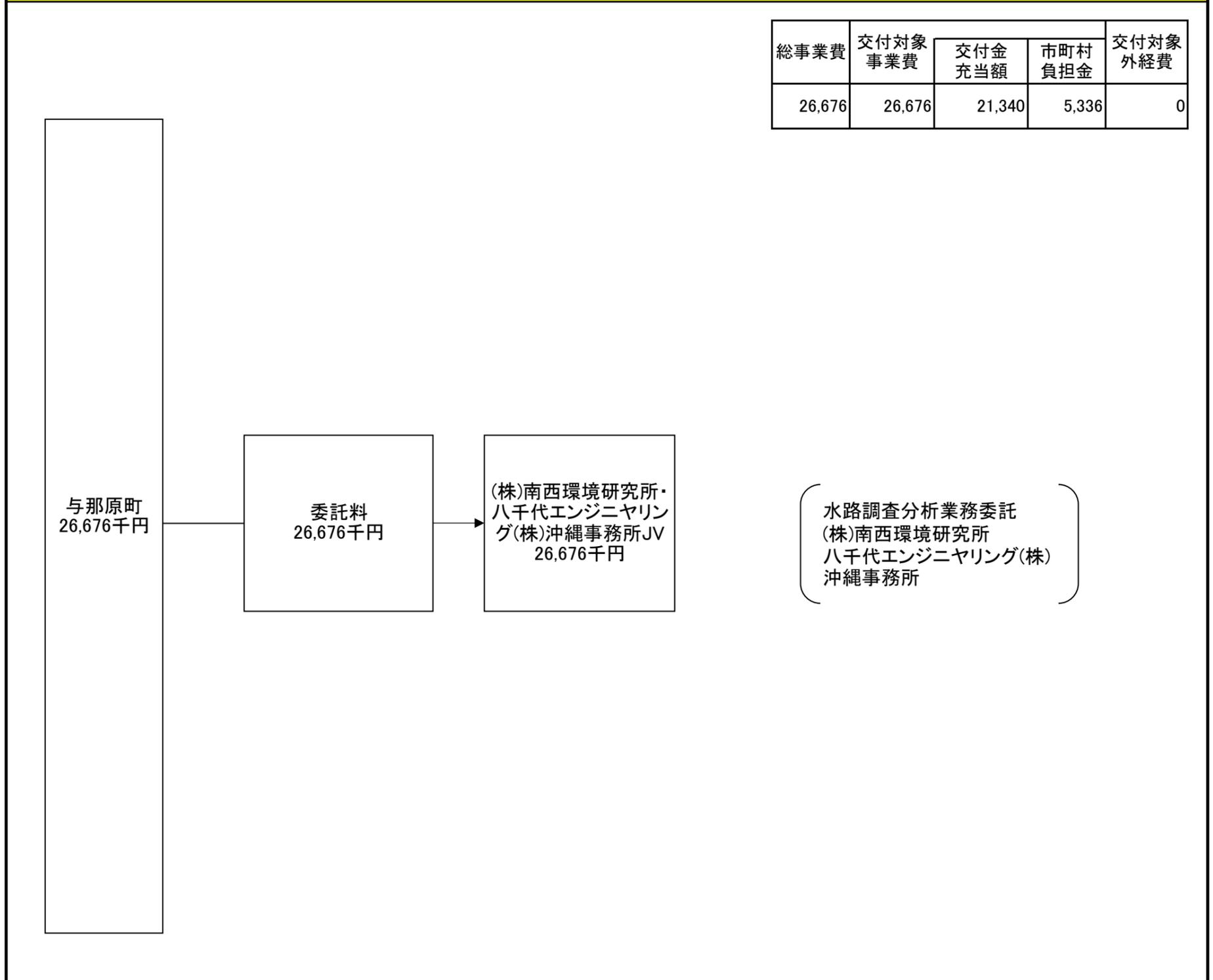
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果、水質汚濁の原因は本町だけではなく、隣接関係自治体からも流入している事が判明したため、隣接関係自治体と一体となって対策をする必要がある。 ・水質予測モデルを用いて、複数の対策案を抽出する事が出来たが、インシヤル・ランニングコストが高額になる対策案もあるため、費用対効果をしっかり検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東浜水路を管轄している沖縄県や、隣接関係自治体と水路浄化に関する協議会を設置し、今回の調査内容を共有し、水路浄化に向けて一体となって取り組む必要がある。 ・水質悪化の程度を踏まえて改善目標を明確にし、対策案ごとの費用対効果の検証を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・東浜水路を管轄している沖縄県や、隣接関係自治体と水路浄化に関する協議会を設置し、今回の調査内容を共有し、水路浄化に向けて一体となって取り組む。

・水質悪化の程度を踏まえて改善目標を明確にし、対策案ごとの費用対効果の検証を行い、対策案を絞り込み、設計・施工に向けて必要な調査や法的手続き等を整理する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○業者見積書を参考に積算を行っている。執行率が94%を超えており予算規模は妥当であると考えます。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	